薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」

郡山市立薫小学校
学 校 便 り　No.３０
令和６年　３月１１日
文責：校長 齋 藤 和 彦

◇◆ 校長室から ◆◇　（東日本大震災：追悼の日にあたり 昼の放送にて）

～「今日 ３月１１日は,私達にとって,特別な日です」～

今日「３月１１日」は，私達にとって,特別な日です。
東日本大震災から１３年目の日です。１３年前は６年生の皆さんが生まれる前の年です。
これまでに経験したことのない巨大な地震,その後の経験したことのない巨大な津波，そのうえに津波によって原子力発電所が壊れて，見えない恐怖：放射能が放出されました。

この特別な日を迎えるにあたって,『命』のお話と『目標に向かって努力している友達』のお話をします。
校長先生が前に勤めていた，相馬市の小学校に「〇〇〇君」という子がいました。
この地震が起きたときは，まだ２歳でした。
〇〇〇君は，校長室に来て，こんな話を聞かせてくれました。
『ぼくは,東日本大震災が起きたとき２歳でした。じいちゃんとばあちゃんと一緒にいた時に津波が襲ってきて家ごと流されました。赤ちゃんだった僕もじいちゃんもばあちゃんも津波の中に飲み込まれたそうです。ばあちゃんが必死で僕を見つけ出して抱っこしました。
その後も，壊れた家の壁や屋根.電柱などが渦巻く中で，ばあちゃんは絶対に僕だけは離さないと，必死で抱き続けたそうです。柱やがれきが体や腕や足に当たっても離しませんでした。　ばあちゃんのおかげで,僕は助かって生きていられるんです。』
〇〇〇君のばあちゃんは,この時のケガで手足が不自由になってしまいました。
でも,学童の先生をして,みんなにやさしく,たくさんのことを教えてくれます。
不自由な指先でも,みんなに折り紙を教えてくれます。鬼ごっこもしてくれます。
〇〇〇君たち（学童の子ども達）は,鬼ごっこで全力で逃げ回るから大変なんです。。。と,〇〇〇君のばあちゃんはいつもうれしそうです。
〇〇〇君には目標があります。バレーボールのスポ少：白波でがんばることです。
ばあちゃんがバレーボールが大好きだからです。試合に勝つとばあちゃんがうんと喜んでくれるからです。
〇〇〇君は今,中学２年生です。相馬市でいちばん小さな中学校のバレーボール部の選手です。昨年の中体連では,このたった１０人ほどの部員の〇〇中学校が福島県で優勝しました。　きっと,〇〇〇君もばあちゃんもたくさんたくさん喜んだことと思います。
〇〇〇君には,小学校からの大きな夢・目標があります。
相馬高校に行って,春高バレー（全国大会）に行って優勝することです。
大人になったら,東日本大震災でケガをしたり苦しんでいる人を助けたい。人の役に立つ医療の仕事をしたいという目標です。一歩一歩がんばってかなえてほしいと思います。

皆さんの命も〇〇〇君と同じように「大切です」。
友だちの命も同じように「大切です」。
みんな夢や目標を持ってがんばりたいと思っています。
みんなみんな「しあわせになりたい」と思っています。
「自分の命」も「友だちの命」も大切にして,「夢や目標がかなえられるように」願う日。
今日　３月１１日は,このようなことを考える「特別な日」です。

６年生は,卒業まであと８日です。
１～５年生もあと８日間,学校に来ると進級します。
８日間の学校生活・友だちとの８日間を大切にしていきましょうね。